

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

雪の武道館で 日本古武道演武大会



日本古武道協会設立三十五周年記念 第 37 回日本古武道演武大会

節目の大会を 厳粛に開催

日本古武道協会設立三十五周年記念第37回日本古武道演武大会（主催Ⅱ日本武道館・日本古武道協会）は、2月9日、日本武道館で開かれた。大会には日本古武道協会加盟流派のうち、35流派が出場。持ち時間8分の中で日頃の稽古の成果を存分に披露した。

大会前日から当日早朝にかけて、東京地方に13年ぶりの警報が発令されるほどの大雪に見舞われ、都心の積雪量は20年ぶりに20センチを越えた。そんな状況にもかかわらず、約1700名の古武道ファンが日本武道館に詰めかけ、各流派の演武に熱視線を送った。

定刻の午前10時半、大太鼓の音が会場に鳴り響くと、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が開会を宣言し、大会は幕を開けた。

国歌斉唱に続いて、主催者を代表して、松永光日本武道館・日本古武道協会会長が挨拶に立った。

「古武道は日本の武道の先祖にあたり、先人が武道を大切なものとして広めてくれました。一時期、武道が禁止された時期がありましたが、戦後、日本を立派な国として再建していくためには、青少年を立派な人間に育てる必要があります。そのために武道と古武道の振興が重要であるという機運が高まり、古武道協会が設立されました。

今日は関係者の努力で第37回大会を開くことができました。ご参加の皆様には古武道の素晴らしさを多くの人に見せ、今後の古武道の発展を図っていくことを心より期待いたします」

次に臼井日出男日本武道館・日本古武道協会理事長が挨拶。

「私は日本に最も大事な三つのものというのをいつも申し上げております。一つが日本人としての誇りを

演武始めを飾ったのは小笠原流弓馬術。幕^{ひきめ}目の儀を執行した。写真は「地の祓い」。意味はその名のとおりである。小笠原流というと正面打起したが、この儀式では写真の状態から、そのまま現代弓道の大三に近い位置に打ち起こして、引き分ける。今回は日本古武道協会の隆盛を願って執行され、魔障退散七難即滅を祈念した。





鐘捲流居合術



天道流薙刀術



円心流居合拵物斬剣法



宝蔵院流高田派槍術



糸洲流空手



二刀神影流鎖鎌術



金硬流唐手沖縄古武術

持つこと。二つ目は他者への思いやりを持つこと。三つ目は今、日本に欠けている活力を持つことです。これらは武道精神を通じて培われます。そのためにも本日より来会の皆様には引き続き、古武道が日本の精神の発露として、これからも伝承されてまいりますようお願い申し上げます」

来賓を代表して高村正彦武道議員連盟会長が挨拶を述べた。

「古武道は日本の誇るべき伝統文化であり、武道の源流です。日本人の精神的バックボーンが武士道であることは、新渡戸稲造が『武士道』という本を書き下ろして以来、世界中に知られている事実です。そして、その武士道精神を最もよく現代に伝えているのが武道です。歴史上、武士たちが直接学んだ武道は皆様方が継承している古武道です。どうか本日はその素晴らしい古武道の心と技、真髄を存分に示していただきたいと思います」

本年は安倍晋三内閣総理大臣とウラジミール・プーチンロシア連邦大統領の首脳会談により、日露武道交流年となった。その関係でエヴゲー



小野派一刀流剣術

柳生心眼流體術

竹内流柔術日下捕手開山

神道夢想流杖術

タイ捨流剣法

尾張貫流槍術



天真正伝香取神道流剣術

ニー・アフアナシエフ駐日ロシア連邦特命全權大使とその夫人が来場され、そのことが三藤理事により紹介された。

開会式に続いて、恒例の古武道功勞者表彰式が行われた。今年の受章者は園部正美（直心影流薙刀術第十八代宗家）と小笠原清忠（弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家）の両氏。

いよいよ演武に移り、小笠原流弓馬術が演武始めを務めた。演武は小笠原流に伝わる歩射儀式の中でも重要な儀式である、幕目の儀が行われた。この儀式は祈願請願に際して行われる魔障退散の儀式で、日本古武道協会設立三十五周年を壽ぎ、今後の隆盛を祈願して執行された。

その後は沖縄剛柔流武術以降、別掲の演武順の通りに進み、演武納めに森重流砲術が登場した。まずは礼射にあたる居放（いはな）を披露。その轟音に驚いて泣き喚く少女もいた。複数の射手が横一線に並んで射撃する備撃が行われ、演武納めとなった。

硝煙の匂いが立ちこめる中、山田重夫日本古武道協会理事・事務局長の閉会宣言により、大会は幕を下ろした。



直心影流薙刀術の園部正美宗家は演武後のインタビューで、功労章受章について、これまで古武道にかけてきた思いが報われたと語った。演武前はいつも以上に落ち着いてしまい、程よい緊張感を取り戻すために一点を見つめて、集中力を取り戻した。テンションが少し上がるくらいの方が演武に冴えや減り張りが出るのだという。



示現流兵法剣術



兵法二天一流剣術



雲弘流剣術



溝口派一刀流剣術



鹿島新當流剣術



柳生心眼流用肩兵法



沖縄剛柔流武術



長谷川流和術



神道無念流剣術

荒木流拳法



卜傳流剣術



■出場流派・演武者（数字は演武順）

1 小笠原流弓馬術（神奈川）

▽三十一世 小笠原清忠、小笠原清基、吉田昌伸、飯島陽一、岡戸隆、星野達郎、田丸達男

2 沖繩剛柔流武術（沖繩）

▽代表 東恩納盛男、寺内一男、上原米和、山城勝也、蔵元雅一

3 兵法二天一流剣術（福岡）

▽宗家 岩見利男、コモン・ティエリ、加治屋孝則

4 竹内流日下捕手開山（岡山）

▽宗家 竹内藤一郎、長尾春義

5 天道流薙刀術（兵庫）

▽宗家 木村恭子、砂川碧、針本佳世子、小林静子、佐藤孝子、広瀬幸子、田室美知子、浦部育子、小野由起子、谷川睦美、頼原和代、稲田千秋、小泉瑠美

6 タイ捨流剣法（熊本）

▽代表 上原エリ子、山本隆博、五反博文、佐藤友昭、田添信一郎、井上義一

7 柳生心眼流體術（栃木）

▽宗家 梶塚靖司、寺久保敦也、小林茂雄、谷野文弥、吉岡一紀、坂本哲郎、藤澤勝也

8 金硬流唐手・沖繩古武術（沖繩）

▽代表 早坂義文、大村朝洋、早坂ゆかり、江幡妙子

9 示現流兵法剣術（鹿児島）

▽宗家 東郷重賢、白坂耕一、有村博康、藤村亨、高橋幸司、塚本嘉洋、

デュルソ・アンリ、末吉雄三朗、ブラッドショー・アレキサンダー、築地克秀

10 宝蔵院流高田派槍術（奈良）

▽宗家 一箇順三、前田繁則、粕井隆、榎浪伸和、尾野好司、若林幹雄、長田眞男、土屋明洋、鈴木誠、西本昌永

11 鐘捲流抜刀術（岡山）

▽宗家 植原正士、植原弘之、柚木一男、河野広司、俣野勝美、島田和行

12 二刀神影流鎖鎌術（高知）

▽宗家 島村収、樋口功、細川隆

13 澁川流柔術（大阪）

▽師範 吉野明嗣、五嶋有気、東英章

14 雲弘流剣術（熊本）

▽宗家 井上弘道、井上照貴

15 荒木流軍用小具足（埼玉）

▽戸叶秀俊、坂本浩一、片桐克彦、豊田良樹、山内秀記、千葉明、矢吹仁志

16 糸洲流空手（神奈川）

▽宗家 坂上節明、楠原清誌

17 初實剣理方一流剣術（岡山）

▽宗家 植月求、植月重幸、星島伸二、正木英登

18 神道夢想流杖術（福岡）

▽代表 波止成徳、篠原武、光廣勝人、神代孝一、福田博文、江藤友子、坂上亨

19 直心影流薙刀術（奈良）

▽宗家 園部正美、萩原晴子

20 柳生新陰流兵法（愛知）

▽宗家 柳生耕一、嚴信、鈴木泰充、柴田幸芳、星川宣禎、瀨上俊顕、霞谷努

21 大東流合気柔術琢磨会（兵庫）

▽森恕、川辺武史、芝田彰祐、山本敦史、小林明彦、吉田英洋、吉田浩子

22 円心流居合据物斬剣法（大阪）

▽山田恭史、濱先康彰、高槻幸雄、山口哲男、片野美佐

23 和道流柔術拳法（東京）

▽宗家 大塚博紀、井上義孝

24 ト傳流剣術（青森）

▽宗家 小山秀弘、小山隆秀

25 尾張貫流槍術（愛知）

▽第十三世継承者 加藤伊三男、下村幸裕、下村直樹、神戸信夫、藤原正道、毛利圭介、神戸溪太、横地浩紀、マイケル・カーン、アレックス・クラップ、森治紀、神原会弥、三木信輔、山内一統、佐藤宏典、赤羽根大介、小池祐紀、若尾洋子、三尋木咲、新小田次徳

26 溝口派一刀流剣術（福島）

▽代表 長沼悟詮、星充

27 長谷川流和術（埼玉）

▽宗家 桑原巡、倉田勝己、中前裕治、逸見彰一

28 鹿島新當流剣術（茨城）

▽原正俊、今井淳也、橋本大、横尾廣美、豊屋敏治、岡見安宏、内田栄一、岡見安定

29 柳生心眼流甲冑兵法（岩手）

▽総本部長 星國雄、高橋健之、鈴木

亮一、豊田猛、酒井直、古澤伸一

30 天真正伝香取神道流剣術（千葉）

▽大竹信利、京増重利、荒野祥司、成毛弘、土井研二

31 荒木流拳法（群馬）

▽宗家 菊池邦光、永田仁志、菊池京一、西川二郎、細野桂一、鈴木荒一、坂口良幸、鈴木崇史

32 神道無念流剣術（東京）

▽館長 小川武、中島宏之、元浦年康、萩崎昭、齊藤政文、中館秀光、落合毅、土屋正則、児玉隆秀、高田一男、城崎建太郎、玉根純也、永楽宏尚

33 気楽流柔術（群馬）

▽宗家 飯島文夫、飯島雅史、飯島幸

34 小野派一刀流剣術（東京）

▽宗家 笹森建美、平田富峰、矢吹裕二、石崎徹

35 森重流砲術（千葉）

▽名誉師範 小野尾正治、村上藤次郎、青木孝、角替進、齊藤一博、片山直巳、石井和己、布川誠（敬称略）



好評発売中

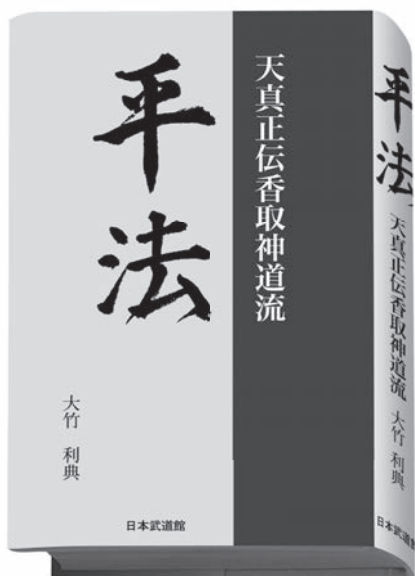
平法

天真正伝香取神道流 師範

大竹利典 著

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

- 序 香取神宮御由緒
 - 第一章 歴史篇
 - 第一節 経津主大神の真伝、「天真正伝香取神道流」
 - 第二章 修行篇
 - 第一節 入門
 - 第二節 林先生に師事
 - 第三節 香取神道流最初の異国の門弟
 - 第四節 流祖生誕六百年記念祭
 - 第三章 技術篇
 - 第一節 剣術
 - 第二節 居合術
 - 第三節 棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
 - 第四節 柔術
 - 第五節 忍術
 - 第四章 軍学兵法篇
 - 第一節 遁甲術
 - 第二節 刀剣と密教
 - 第五章 思想篇—全ての修行者へ—
 - 第一節 修行者の心得
 - 第二節 兵法は平法なり
- 平和を願う偉大なる教え



◎ご注文はインターネット **Amazon.co.jp** にて。全国の書店でもご注文いただけます。
◎お急ぎの方は、下記お問い合わせ先にご連絡ください。**送料無料**で販売いたします。

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



（B5判・上製・箱入・462頁）

古流武術研究家

横瀬

知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介！

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。



臼井日出男
日本古武道協会理事長



松永 光
日本古武道協会会長



設立三十五周年を 200名で盛大に祝う

日本古武道協会設立三十五周年記念式典・祝賀会

日本古武道演武大会前日の2月8日、日本古武道協会設立三十五周年記念式典・祝賀会がホテルメトロポリタンエドモント（東京都千代田区）で行われ、全国各地から集まった200名が盛大に三十五周年を祝った。

日本古武道協会設立三十五周年記念式典・祝賀会が開かれたのは、大雪の当日。朝から一向にやむ気配を見せることなく深々と降り続き、夕刻には足が埋もれるほどの積雪となった。交通機関の乱れもあり、来場状況が心配される中での開催となったが、欠席者は少なく、200名が集まって定刻の午後5時に開会した。

開会宣言は山田重夫日本古武道協会理事・事務局長が行った。国歌斉唱の後、松永光日本古武道協会会長（日本武道館会長）が挨拶に立った。「我が国は先輩たちの多大な努力で道徳の行き渡った国となりましたが、現代、それは乱れつつあります。道徳心を再び復興し、素晴らしい日本人、より良い日本をつくるためには、その前提にある武道精神を奮い立たせることが非常に大事なのです。国においても、中学校で武道が必修となりました。若者に対して武



道精神が教育の基本になるということを示すため、皆様にも結束していただき、心を一つにして頑張っていきたいと思います。明日の演武大会は、そういう意味でも、非常に意義あるものになると思います。日本の武道、古武道、そして道徳をより一層立派なものにするため、皆様のさらなるご支援とご協力を賜りますようお願いいたします」

続いて、白井日出男日本古武道協合理事長（日本武道館理事長）が挨拶を述べた。

「古武道は我が国の歴史と伝統の中で培われ、育ってきた現代武道の原点であります。戦後の厳しい環境の中でも、私たちの先輩はしっかりと武道・古武道を守って、今日まで繋いでいただきました。先人の方々のご苦労に対し、心から敬意と感謝を申し上げます。さて、私は、日本にとかく欠けがちになっているものが三つあるというお話を常に申し上げております。日本人としての誇り、他者への思いやり、そして元気さ・活力。この三つをしつかりと堅持し、高揚していかなばなりません。35周年を機に、この日本精神がさらに高

揚していきますよう、引き続きのご指導をお願い申し上げます」

ここで、鏡開きが行われた。松永会長、白井理事長、三藤芳生日本古武道協会常任理事（日本武道館理事・事務局長）、山田理事・事務局長が、合図で一斉に木槌を振り下ろすと、勢い良く鏡が開き、祝いのムードが高まった。

全員に樽酒が振る舞われ、三藤常任理事の言葉で乾杯した。

「古武道協会三十五周年の先達のいろいろなご尽力に心からの感謝の誠をささげ、また、日本が誇る古武道のますますの発展・振興を祈念して、高らかに杯を上げたいと思います」

出席者は流派の枠を越えて古武道談義に花を咲かせ、雪の夜の静けさとは対照的に、大変賑やかな祝賀会となった。

